

their use, storage and manufacture.

Especially at the 1955 Pugwash Conference of Nuclear Scientists held in Austria, a strong desire was expressed for prohibition of nuclear weapons and for elimination of wars, and a statement was issued on the responsibility of scientists and the necessity of international co-operation.

In sincere appreciation of the efforts of these scientists, we resolve to appeal to our fellow scientists in all the countries of the world:

(1) To make further efforts for realizing, in their own countries or through international co-operation, immediate and unconditional prohibition of nuclear weapons as well as prohibition of their use, manufacture and storage, and, for this purpose, to use their influence towards the conclusion of an agreement on prohibition of nuclear weapons among the nations possessing such weapons; and

(2) To support the spirit of the Pugwash conference, to make known to people the results obtained at the Conference and to make them reflected in the policies of their governments, as well as to promote closer co-operation among scientists in different parts of the world for achieving the purpose.

Tokyo, 24 October 1958

Adopted by the Science Council of
Japan at its 27th General Meeting

4-32

昭和33年10月24日

日本学術会議第27回総会

学問思想の自由を守るために一層の努力をつくすことを改めて誓う声明(声明)

1949年1月、日本学術会議第1回総会は、満場一致をもつて次の趣旨の声明を採択した。即ち「われわれは日本の科学者が、今次敗戦に至るまでに取りきたつた態度を強く反省し、日本国憲法の保障する思想と良心の自由、学問の自由、および言論の自由を確保するとともに人類平和のために努力することを誓う。」

爾來10年、日本学術会議は、この声明の趣旨にそつて学問・思想の自由を守るために努力をつづけてきたが、最近の社会の動きの中には、再びわれわれをしてこの学術会議創立に際しての声明を確認し、更にその精神を守るための決意を新たにしなければならぬ事態のあることを感じ、深くこれを

憂うものである。

われわれは学問の本質にかんがみ学問・思想の自由を守るために一層の努力つくすことを改めてここに誓うものである。

4 - 3 3

昭和33年10月24日

日本学術会議第27回総会

基礎科学研究の振興のために政府の有効適切な措置と国民の理解と支持を望む声明（声明）

技術革新の基盤である基礎科学の進歩は、欧米では、最近飛躍的なものがあり、わが国とのひらきは益々増大しつつあることがあきらかである。わが国としては、今日直ちに強力な施策をもつて、基礎科学の研究全般にわたり、水準の飛躍的な向上、内容の画期的な充実を図り、これによつて、科学・技術の強固な基盤を培養しなければならない。もし、これを放置するならば、数年ならずして、わが国の科学技術は、多くの重要な分野において国際水準から脱落せざるを得ず、その前途はまことに憂慮すべきものがある。

日本学術会議は、政府が、この点に関し、従来本会議が要望してきたところに基づき、有効適切な措置を速かに講ぜられることを強く切望するとともに、この事態に関し広く国民の理解と支持とを望むものである。

説 明

第2次世界大戦の直後、世界の多くの国々においては、戦後復興の基本政策として、科学技術の振興を計画しました。その際特に重視されたのは基礎科学であつて、米国のスチンマル報告においても「国運の進展は基礎科学の研究の進展にかかっている」と結論しております。

この基本方針に基いてその後10年の間に、世界の科学界はほとんど面目を一新しつつあります。原子力の利用、核融合の研究をはじめ、科学のあらゆる分野の発展が、その国の経済文化の発展に大きな貢献をしておりますが、その際特に顕著な事実として、基礎研究の範囲がいちじるしくひろくなり、基礎研究が応用部面と直接にむすびついてきており、今後の基礎研究の発展が、産業技術の進歩に、はかり知れない可能性を約束しております。

こうした見地から、欧米各国の基礎科学研究に対する熱意は驚くべきものがあり、最近欧州、および米国を訪れた研究者が一様に強い衝撃を受けているのが事実であります。

例えば、素粒子研究に欠くべからざる加速器一つを例にとつても、米国、ソ連を別として、わが国とほぼ相似た欧州の諸国において、わが国の計画を遙に上まわる施設が着々として建設されており、今のままでいけば、この面における欧州諸国とわが国とのひらきは、ますます大きくなつていくばかりであります。

また広く基礎科学全般にわたり、研究所の設置、その運営の予算等についても戦後数年間は不足不満を訴えていた西ドイツ、イギリス、フランス等において、急速な充実がみられ、近年はその予算が少くともかつての数倍程度に向上し、従来の不足不満は解消し、研究者は落ついて研究に立ち向つております。

新しい科学の発展の結果、従来小規模でよいと考えられていた基礎研究の部面も新しい巨大な設